

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590700161		
法人名	有限会社 誠心会		
事業所名	グループホーム笠戸		
所在地	山口県下松市大字笠戸島10032-38		
自己評価作成日	令和3年6月	評価結果市町受理日	令和3年11月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
調査実施日	令和3年7月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様が季節に応じたちぎり絵を制作し、見える場所に掲示して四季を感じられるよう支援している。 ・誕生日には皆さんでハッピーバースデーを歌いお祝いしている。 ・海や山が見える自然に囲まれた場所で、ゆったりと過ごすことが出来る。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は、水やりをして育てた野菜を収穫され、野菜の下ごしらえ、米とぎ、盛り付け、お盆拭き、テーブル拭き、食器洗い等できることを職員と一緒にしておられるなど、食事に関する作業に力を発揮されています。食事は旬のものを取り入れられ、週1回のおにぎりづくり、月1回のお赤飯、誕生日食(お寿司、天ぷら、ケーキ)を楽しまれ、季節の行事食で季節の移り変わりを感じるように工夫されています。おやつづくりでは、昔懐かしいものや季節感を考慮されて、つくることを楽しまれながらおいしく食べておられます。施設周辺の散歩、野菜や花の世話、洗濯物干し、洗濯物たたみ、拭き掃除、食事の手伝い、裁縫、ゴミ捨て、カーテンの開閉、日めくり、新聞とチラシの仕分け、廊下の歩行練習、趣味の削り絵、間違ひ探しやぬり絵、季節の作品作りなど、利用者一人ひとりの活躍できる場面づくりややる気を引き出す楽しみごとを支援され、事業所理念にある自分らしい、穏やかな生活が出来るように取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム笠戸の理念を見えやすい場所に掲示している。職員はそれを共有し日々の業務を行っている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念を食堂と廊下に掲示している。職員は、毎月の職員会議や日常業務の中で理念を確認し、自分らしい穏やかな生活、その人らしくを意識して、日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催される行事には出来る限り参加し交流をはかっている。今はコロナ禍で交流が難しい状況が続いている。	自治会に加入している。コロナ禍で地域行事は殆ど中止となるが、昨年12月のまるごと笠戸島に利用者と職員が参加して地域の人と交流している。事業所行事やボランティアの来訪も中止となり、地域の人との交流も少なくなっているが、施設周辺を散歩する時に挨拶を交わしたり、野菜の差し入れがある。運営推進会議の参加者に、毎月事業所だよりを送付して、利用者の様子を伝え、地域とつながりながら暮らす工夫をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して地域との交流に努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の意義を理解しながら取り組んでいる。評価により改善が必要な場合は、早急に対応する。	管理者は、職員会議で評価の意義を説明している。全職員に書類を配布して意見を記入してもらい、管理者がまとめている。評価を受けて、全職員が初期対応訓練に取り組むこと、災害対策として地域住民との協力体制を構築することを目標達成計画に立てて、改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策で書面にて2ヶ月に一度、運営推進会議を開催し、活動報告や取り組み状況を説明している。推進委員の皆様からファックスやメールで意見を頂きサービスの向上に活かしている。	会議は2ヶ月毎の文書開催とし、参加者に利用者の状況、行事予定、事業報告、事故報告の資料と事業所便りを送り、意見や要望、質問を聞いている。意見や要望事項を検討して議事録にまとめ、次月の事業所便りと共に参加者に送付している。低床ベッドの導入、コロナ禍での体力維持やストレス緩和、利用者への目配り、気配りなどそこで出た意見をサービスの向上に活かしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないことや困った事があれば相談し、協力をお願いしている。	市担当者とは、電話や直接窓口に出向いて相談、情報交換するなど協力体制を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換する他、日頃から相談するなど連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない。勉強会を実施して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は「身体拘束廃止マニュアル」と年2回の研修で身体拘束について学び、理解して身体拘束しないケアに取り組んでいる。3ヶ月に1回「身体拘束廃止委員会」を開催している。スピーチロックに気づいた時には、管理者が注意している。玄関は施錠せず、利用者が外に出たい時には職員と一緒に出かけて、海や花を眺めるなどして気分転換を行い、利用者が閉塞感を持たないように対応している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	書面にて学び、虐待防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議や全体会議で勉強会を行う。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約日に契約の締結等の説明をし、ご理解と同意を求め、納得して頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在コロナ感染対策で面会禁止の為、電話連絡時に、ご意見やご要望を伺い、改善や調整を行い反映させている。苦情に対する受付体制も出来ている。	苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。毎月事業所便りと行事予定表を送付して利用者の様子を知らせており、面会時、電話時、運営推進会議時、苦情箱への投稿などで家族からの意見や要望を聞いている。現在は休止中だが、3ヶ月毎に介護相談員が来訪して利用者の意見を聞いている。面会の希望や下肢筋力の維持など、ケアに関する要望はその都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催している職員会議や毎日のミーティングで意見や提案を聞き反映させている。月に一度、代表者と管理者にての会議を行っている。	管理者は、毎月の職員会議や毎日のミーティングの他、日頃の業務の中で職員の意見や要望を聞いている。年1回、オーナーの個人面談がある。入浴支援時のエプロンの購入や飛沫防止ガードの設置など、職員からの提案を受けて話し合い、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々、働きやすい職場環境にしていくように努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に対して研修に積極的に行くよう伝えている。希望者には速やかに研修に行かせている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じ、勤務の一環として参加できる機会を提供している。法人研修は、年間計画に基づき、法人施設職員が講師となって毎月開催し、利用者同士のトラブル防止、熱中症対策、介護現場の事故対応、下肢筋力の維持、脳の活性化、口腔機能の改善、介護保険の改正、感染症予防などのテーマで、実施している。内部研修は、年間計画に基づき、職員が交替で講師となり、介護記録の書き方、認知症について、排泄の話、緊急時の対応、筋力低下、骨折、身体ケア、入浴の効果、褥瘡、高次脳機能障害等のテーマで実施し、欠席者は資料の閲覧が出来る。新人研修は、管理者が個別に指導している。資格取得については、受講料の負担や勤務体制を考慮するなど支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナにて機会は減っているがコロナ終息後は増やしていく。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人やご家族と面談を行い不安なことや要望などをよくお聞きして安心して頂けるよう信頼関係作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族に施設の見学をしていただき困っていること、不安なこと、要望などをお聞きして安心して頂けるよう信頼関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の意向を把握したうえで、今、必要とされる支援を見極めて、ご本人や家族から安心して頂けるようサービスの提供に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすという意識を持ち人生の先輩から学ぶという姿勢のもとで生活している。手伝っていただいた時にはありがとう、助かりましたなどの声掛けをして助け合いの関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族や友人がいつでも気軽に面会に来られる雰囲気作りをしている。本人と家族の絆を大切にして職員も一緒になって支え合っていく関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ禍で面会禁止だが、家族や親戚、友人との面会や、手紙や電話の取り次ぎを支援し、これまでの関係が継続されるよう支援している。	コロナ禍で面会制限の時期もみられたが、家族や親戚とのガラス越しの面会、年賀状や暑中見舞い、手紙、電話の取り次ぎを支援している。家族の協力を得てかかりつけ医や他科受診に合わせて自宅で弁当を食べるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握して、一緒に生活する家族として関わり合えるよう支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院による退所者の入院先への確認やご相談などの話し合いに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご本人に話を伺い思いや意向の把握に努めている。利用者様に寄り添い傾聴している。	入居時のアセスメントシート(基本情報、生活歴、要望など)を活用している他、日々の関わりの中で利用者一人ひとりの様子や気づき、会話、行動などを「行動・介護記録」に記入し、ミーティングなどを活用して思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、本人の仕草や表情、家族から聞き取った事を参考に職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報やご本人に話を伺い、生活歴や暮らし方、生活環境等これまでの経緯の把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの出来る力や理解度等を日々の生活の中で見い出して現状の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議などで一人ひとりの問題点を話し合い意見やアイデアなどを反映して介護計画に繋げている。	計画作成担当者と担当職員が中心となって、毎月カンファレンスを開催し、利用者や家族の思い、主治医や看護師の意見を参考にし話し合い、介護計画を作成している。6ヶ月毎にモニタリングと見直しを行い、利用者の状態が変化した場合は、その都度話し合っ現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日々の様子やケアの実践など記録に残している。状態に変化があった場合には職員間で情報共有しケアの検討を行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態に変化が生じた場合など医療機関と連携をとりご家族に報告・相談し、受診・入院などの支援を行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源であるボランティアにきて頂き、心豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう支援している。(現在、新型コロナウイルス感染症対策の為、中止している。)		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を行っている。受診が必要な場合、職員が同行し適切な医療が受けられるように支援している。	本人や家族が希望する医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関から月2回の訪問診療があり、法人の看護師が付き添っている。協力医療機関以外の医療機関や他科受診は家族の協力を得ており、受診時には口頭で日頃の状況を伝えている。必要に応じて事業所が受診支援を行い、電話で家族に報告している。夜間や緊急時は計画作成担当者を中心に管理者、法人看護師と共に医療機関と連携して適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の状態変化がある時は職場内の看護師や訪問看護師に報告・連絡・相談出来る体制が整っており、適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在はコロナ感染対策で面会禁止だが、入院された際にはお見舞いに行き、ご家族や病院関係者と情報交換や相談に努め、看護師との関係作りにも努力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応マニュアルに基づき、事業所ができる対応について契約時に家族に説明している。重度化した場合は、家族の意向を確認し主治医や看護師など関係者で話し合い医療機関への入院や他施設への移設も含めて方針を決めて共有し支援に取り組んでいる。	「重度化対応マニュアル」に基づき、重度化や終末期に向けて事業所のできる対応について、契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族の意向を確認し、主治医や看護師など関係者で話し合い、医療機関への入院や他施設への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	対応した職員がヒヤリハット・事故報告書を記入し職員に回覧している。ミーティングや会議で検討し再発防止に努めている。火傷、打撲などの処置は看護師が対応しており、看護師による研修会等開催し、実践力を身につけていきたい。	対応した職員が、ヒヤリハット・事故報告書に記入し、管理者が確認後、全職員に回覧している。緊急ミーティング、全体会議、職員会議で検討し、再発防止に努めている。火傷、剥離、打撲の処置などは日常業務の中で法人看護師から学んでいるが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に一度、避難訓練を行っている。また、夜間にも緊急連絡網を通じて呼び出し訓練を行っている。	年2回、法人全体で昼間想定火災訓練を実施し、1回は消防署の協力を得ている。通報訓練、避難経路の確認、避難訓練、消火訓練を利用者も参加して行っている。毎月15日は、併設のデイサービスセンターと合同で土砂災害避難訓練を実施している他、年1回事業所独自で夜間に緊急連絡網を使用した呼び出し訓練を実施している。訓練の反省から避難後の居室の再確認に取り組んでいる。災害に備えて水や食料品、オムツ、医薬品などを準備している。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライドを傷つけないように居室への出入りの際は声掛けをし、入浴や排泄介助の時にはドアを閉めるなどの対応を心掛けている。	職員は「プライバシー保護マニュアル」に基づいて、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。居室への出入り時の声かけや入浴時、排泄介助時には特に対応に配慮している。不適切な対応が見られた時には管理者が指導している。記録の保管や個人情報の取り扱い、管理にも留意している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	集団での作業や行動を強要しない。利用者が自己決定出来るように選択肢を用意し働きかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の意思に沿って、一人ひとりのペースに合わせた支援を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度、訪問理容師にカットしてもらっている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おにぎりの日を作り利用者の皆様に作ってもらっている。おやつ作りの手伝いをお願いしている。食べた後の片付けや食器洗いも出来る方にはお願いしている。	朝食と炊飯は事業所で行い、昼食と夕食の副菜は法人栄養士がたてた献立で、畑の収穫野菜や差し入れ野菜を使い、法人の厨房で調理している。利用者の状態に応じて粥やキザミなど形態を工夫している。利用者は、米とぎ、野菜の下ごしらえ、盛り付け、テーブル拭き、盆拭き、配膳、下膳、食器洗い、コップ洗い等できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、テーブルを囲んで同じものを食べている。月1回の赤飯の日、自分の分を握る週に1回のおにぎりの日、毎月の誕生日食(寿司、天ぷら、ケーキ)、季節の行事食(おせち、節分、端午、七夕、敬老の日、クリスマス)、おやつづくり(ぜんざい、牛乳寒天、水ようかん、イタリアンプリン、ゼリー、フルーツポンチ、フレンチトースト、ホットケーキ、ピザ、桜餅など)、家族の協力を得て受診時に自宅や車中で弁当を食べるなど、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録に残している。食事の時には水分摂取の声掛けを行い支援している。夜間、水分補給できるようにペットボトルを居室に置いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態を把握し、義歯のかみ合わせを確認しながら、毎食後、口腔ケアを行っている。一人で出来ない利用者には職員が介助を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して、声掛け誘導している。紙パンツ・リハビリパンツの使用量が最小で済むように支援している。	排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人に合わせた声かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日2回の体操・口腔体操を行い、便秘予防に取り組んでいる。必要な利用者には歩行に付き添い身体を動かす支援を行っている。排泄チェック表を作成し、水分補給を心掛けている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午前中を入浴時間にし、週に2回は入浴して頂いている。利用者様の体調や都合に合わせて曜日を変更し支援している。湯温や入浴剤などもできるだけ希望に沿うよう支援を行っている。	入浴は毎日、9時から11時30分頃まで可能で、利用者の希望に合わせて、週に2回はゆっくり入浴出来るように支援している。体調に合わせてシャワー浴や清拭、足浴を行い、柚子湯や入浴剤を使用して入浴を楽しんでいる。入浴したくない人には、時間をずらしたり、職員を交替して声かけするなど工夫して対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調などにより昼寝をしていただいたり、居室の温度・湿度などの管理を行っている。ご本人からの希望を尊重している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋をファイルに収め、情報を共有し、変更時には職員全員に申し送りを行っている。体調変化などはかかりつけ医に報告している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しやたたみ等の家事の手伝い、レクリエーションなど、利用者様が楽しく過ごして頂けるよう支援している。	テレビ(時代劇、歌番組、ニュース)やDVD(歌番組)の視聴、本、雑誌、ちぎり絵、貼り絵、ぬり絵、削り絵、折り紙、脳トレ(漢字、計算)、歌、カラオケ、ラジオ体操、口腔体操、風船バレー、玉入れ、魚釣りゲーム、おやつ作り、季節行事(節句、七夕、敬老会、運動会、ハロウィン、クリスマスなど)などの楽しみごとの支援をしている。洗濯物干し、洗濯物たたみ、おしぼりたたみ、カーテンの開閉、日めくり、新聞とチラシの仕分け、裁縫、ゴミ捨て、食事の手伝い(米とぎ、野菜の下ごしらえ、盛り付け、食器洗い等)、花の苗植え、畑やプランターの水やり、野菜の収穫(イモ、トマト、ナス、豆など)など、活躍できる場面づくりをして、利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の体調や天候などに配慮しながら施設周辺の散歩をしている。コロナ終息後は地域の行事にも参加し、多くの皆様と触れ合う機会を設けたい。	施設周辺の散歩や花摘み、ひなたぼっこを楽しんでいる。家族の協力を得て、受診時に自宅に立ち寄るなど、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの利用者様が自己管理が難しいため、基本的に所持金はありません。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいとの要望があれば支援している。手紙を書かれた時にはポストに投函し支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には落ち着いた色のカーテンを掛け強い刺激がないように配慮している。また季節の花を飾ったり、日中はカーテンを開けて外の景色を楽しんでもらっている。	玄関にはフェルトの作品や季節の花を飾っている。居間兼食堂は天井が高く広々としており、大きな窓からは自然の光が差し込んで明るく、緑の山々や畑の野菜を見て季節の移ろいを感じることができる。ダイニングテーブルやイス、大型テレビの前には大きなソファが置いてあり、利用者が思い思いの場所でくつろげるように工夫している。壁面には利用者が職員と一緒に作った季節の作品や日常の写真が飾っており、季節感を感じることができる。温度や湿度、換気に配慮して、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子・ソファなどの配置を考え、一人になれたり、思い思いに過ごせるように工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	時計や写真など、今まで使われていた馴染みの物を持参していただき居心地よく過ごせるように工夫している。	テレビ、整理タンス、衣装掛け、三段ケース、机、イス、籐イス、時計、ぬいぐるみ、人形、小物入れなど自宅で使い慣れたものや好きなものを持ち込み、家族の写真や手作りカレンダー、色紙などを飾っている。室内は本人が落ち着く色彩で使い勝手が良いように家具を配置するなど、居心地良く過ごせるように配慮している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全第一に考えて危険のないように不要な物を排除し、大きな文字の張り紙をし、自立できるよう工夫している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム笠戸

作成日： 令和 3 年 11 月 17 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	事故防止の取り組みや事故発生時の備え	全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施	毎月開催の職員会議後に看護師による研修会を開催する	2ヶ月
2	36	災害対策	地域との協力体制の構築	イベントに積極的に参加し地域との関わりを持つ	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。